

令和8年度 小中一貫教育（道徳教育と生活科・総合的な学習の時間）構想図

《全町道徳》 出会いやかかわりの中で、児童生徒の「自己肯定感」を育成する

〔目指す子ども像〕

自己肯定感を高め、自信をもって学習に取り組んだり、学校や地域での生活をおくったりすることができる。



道徳教育の充実

自己を見つめ、人とつながる学び

生活科
総合的な学習の時間の充実

【本質的な問い】「自分らしさ」とは

〈目標〉
望ましい自己の形成を図る

〈重点内容項目〉

A主として自分自身に関すること

自分の在り方を自分自身との関わりで捉え、望ましい自己の形成を図る

小学校

《第1・2学年》

・自分の特徴に気付く

《第3・4学年》

・長所を伸ばす
・粘り強くやり抜く

《第5・6学年》

・短所を改め、長所を伸ばす
・物事を探究しようとする心をもつ

中学校

・困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げる
・探究して新しいものを生み出す

【心の元気】
児童生徒が主体となり、学校と家庭や地域が一体となった体験活動の実施（植栽活動・あいさつ運動等）

誰と出会うか

〈取組内容①〉
「学校」と「家庭」「地域」をつなげる

体験

人

対話

道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度

体験や経験を通して生まれた興味・関心や課題意識を自己の現在や将来にとって切実で意味のある課題として多面的・多角的に捉える

できている自分を自覚させる

〈取組内容②〉
「特別の教科 道徳」の授業改善

・他者との議論を通して、多面的・多角的に考え、議論を深める。

- 自分の考えをもつ
- 他者の考えを知る
- 他者と議論する
- 全体で共有する

ICT 機器の効果的な活用

・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

感情を動かす

〈取組内容③〉
児童生徒理解を基盤とした生徒指導の充実

- ・態度の三成分（認識・感情・行動）
- ・つまずきの背景（発達障害、外国籍等）を理解し、個への支援
- ・不登校児童生徒支援（SSRの充実）

〈実態把握〉
i-checkの実施（年2回：6月・12月）

〈目標〉
互いのよさを生かしながら、積極的に社会参画しようとする態度を養う

心を動かす体験

生活科

知りたい、やってみよう！！

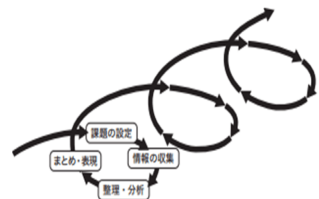
児童一人一人の思いや願いの実現に向かう活動や体験を行う

自分のよさや可能性に気付く

総合的な学習の時間

何とかしたい、どうすればよいか

解決したい課題



探究の成果を他者や地域との関係で捉え、価値あるものとして表現する

新たな価値の創造

- ・海田町こども議会
- ・海田学「平和」
- ・企業等と連携

目標値 「自分にはよいところがある」肯定的割合：全国平均+5ポイント（各学年）